

道徳の時間で活用する ～相互理解、寛容～

岩国市立周東中学校 大園 克紀

1 本場面におけるポイント

- 互いに尊重し、相手の個性や良さを受け入れ、謙虚に他者から学ぼうとする道徳的態度を育成する。
- 他者の意見に素直に耳を傾け、相手のよさを認めることができる力を育成する。
- 他者から認められることで自分の長所に気付き、自分自身を肯定的に受けとめる姿勢を育成する。

2 授業の実際

1 主題名 言葉の向こうに

2 ねらい

それぞれの立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解して、寛容の心をもとうとする道徳的心情を育む。

3 展開

(1) 導入 相互理解、寛容、他者理解についてのきっかけづくり

教師：人とのコミュニケーションツールって、どんなものがある？

生徒A：「手紙」、「家の電話（みんなが使っている）」、「携帯電話（個人のもの）」
「SNS」、「インターネットのメール」、「掲示板」、「ブログ」

- 指導上の留意点・支援・「私たちの道徳」活用のポイント等

資料への興味を高めるため、インターネットの利用時に生徒自身が実際に体験したことやトラブルも導入で聞いてみた。多くの生徒が実際に上記のコミュニケーションツールを利用している様子も分かった。その上で、「私たちの道徳」P78からの本文を読んだ。



(2) 展開 主発問に対する班活動

教師：筆者である私が、思わずメールの画面を読み直したのはなぜだろう？

生徒B：自分のことばかり考えていたから。

生徒C：大切なことを忘れていたから。

生徒D：字面ばかりで相手のことを考えてないから。

生徒E：自分の言葉には責任をもつべきだから。

生徒F：人にはそれぞれの考えや個性があるから。



□ 指導上の留意点・支援・「私たちの道徳」活用のポイント等

主発問を一つに絞り込むことによって、生徒が本時のポイントを感じ取り、他人のことではなく、日常生活の自分のこととして考えやすいように配慮することを心がけた。また、個人でも集団でも、課題をじっくり考える時間を確保した（個人で考える時間3分→班活動で考える時間10分 ※ この間に司会者、記録者、ホワイトボードへの記入者、班で出た意見をまとめて発表する生徒と役割分担を決めた。）。

その後、代表者による班の意見を発表する時間を設定した。

(3) 終末 ワークシートによる本時の活動の振り返り

教師：自分と異なるものの見方や考え方と出会っても、お互いを認め合い学び合う心をもつために必要なものは何か。

生徒G：私は、一人ひとり個性があって全く同じ人間はいないと思う。自分と異なってイラッとする時もあるけど、そんな日があったり、そんな人がいるからこそ、毎日がニギヤカで個性があふれているんだと思う。その方が、幸せだと思う。

生徒H：ぼくは、インターネットを使う時には、見えない相手のことを気にかけて、書き込みを見た人が嫌な思いをして傷つくことがないように気を付けたいと思う。以前、ケータイ教室であった「思いやりと想像力」を大切にしたい。

教師：インターネットを利用することは様々な面で役立つが、まずは、自分と他者がよりよいコミュニケーションをとることが大切である。（まとめの要約）。

□ 指導上の留意点・支援・「私たちの道徳」活用のポイント等

道徳に限らず、教科や総合的な学習、日々の生活ノートなどのやりとりで、生徒と会話をするような気持ちで、しっかりと言葉のキャッチボールをするコメント（生徒のがんばりに感謝の気持ちをこめて返事する。）を書くことに努めた。



3 実践を振り返って



今年度参加した道徳研修会で、最も美しく心に響いた言葉がある。

道徳とは、真摯に生きることへの勇気や希望をもたせてあげたいという教師の願いのもとで、生徒が語り合うことを通して、自分の生き方を見つめ、考え、高めることのできる時間。また、生徒がよりよい生き方を自分の心の中に「そっと決意する時間」であると……。かくありたいと心から感じた。